

# 平成26年度を振り返って

教職センター長 今 崎 浩

平成26年度は学内組織の改編、人事異動等に伴い、教職センターが大きく様変わりした1年であったように思います。

これまで教職センターの充実・発展に御尽力いただいた南村俊夫先生、下東幸裕先生が退任され、教職センター長、各部長も新メンバーとなりました。

また、昨年度までの幼・小教諭専門委員会、中・高、栄養教諭専門委員会、保育士専門委員会が、それぞれ幼・小教諭部会、中・高、栄養教諭部会、保育士部会と名称を変更し、部会員も6～8名から3～4名となりました。

さらに、教員免許状更新講習運営委員会が所管していた教員免許状更新講習も教職センターが所管することとなり、学生サポート課からは新たな支援をいただくこととなりました。

このような大きな変化の中でスタートした教職センターにとって、本当に嬉しいニュースは平成27年度公立学校教員採用試験において、現役生・卒業生を合わせ67名が最終合格するというかつてない結果を残すことができたことです。特に広島県においては、県全体の小学校教諭の最終合格者383名のうち、本学の現役生・卒業生が48名合格しています。つまり、広島県の小学校の初任者10人に1人は本学出身者ということになります。これも学生一人一人の努力と、それを支える多くの先生方のお力があってのことだと思えます。この場を借りて、厚く御礼申しあげます。

これだけ多くの学生が自らの長年の夢を叶え、来春から学校の教壇に立つということは本当に喜ばしいことではありますが、このことは一方で本学の教職課程の質を問われることにもなると受けとめております。今、学校現場ではベテラン教員の大量退職、学校の小規模化、業務の多忙化等によって、かつてのように学校で教員をじっくりと育てていくことができにくい状況があります。

教職センターとしては、近年の大学教育改革にも見られるように、学生が修得すべき知識・技能を明確にして「何を教えるか」よりも「何ができるようになるか」に重点を置いた教職課程の在り方、できるようになったことを常に刷新していくような「学び続ける」意欲を育む教職課程の在り方について引き続き研究を進めてまいります。

平成27年1月